

福祉の対象者を担い手にする方法

①	当事者のささやかな実践を「ボランティアである」と認知、そう自覚させる 本人も無意識に何らかの行為をしているはずで、「それもボランティアですよ」と指摘してあげる
②	当事者の特技が生かせる対象をさがし、結び付けてあげる 誰でも何らかの特技がある。それを求めている人は誰か？
③	ワーカー（介護職員）と対象者の区別をやめる。個人的お付き合いに 「自分はこの要援護者にサービスをする立場だ」と考えない。1人の人間として頼めることもあるのでは？
④	施設内に（要援護者による）ボランティアセンターを設置 センターを設ければ、本気で入所者のできることを探そうとするはずだ
⑤	地域の要援護者を施設に引き込む—その人への関わりを（入所者に）促す 施設入所者が担い手になれる相手を地域から探し、施設に引き込む
⑥	高齢者だけの施設でなく、子どもや障害者も含めた施設にすれば、自然に活動が始まる いろんな種類、世代の人が集まれば、だれかに対してできることが出てくるものだ
⑦	要介護者（入所者）をボランティアグループに仲間入りさせる 人に尽くすグループに仲間入りすれば、そのままボランティアになる
⑧	セルフヘルプグループづくりを支援。そこで助け合いが始まる 同じ要援護者の仲間に対してできることが生まれてくる